

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100161		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ千葉浜野		
所在地	千葉県千葉市中央区村田町799-1		
自己評価作成日	平成22年4月19日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosjp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成22年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くにコンビニがあり気軽に日々の中で消費する牛乳やヤクルト、また個人の趣向が反映されるおやつなどが購入できる環境にあり、よく買出しに入居者様と職員が一緒に出かけている。入居者様による選択の自由や、また目的地まですれ違う地域の方との挨拶や会話など、地域の中で生活が出来るよう支援している。出来る限り社会(地域)とつながって特別な工夫で普通の生活が継続できるよう支援している。ホーム南側の畑では入居者様と職員が協力しあい、むしろ入居者様が主体になり職員がその補助にあたる取り組みを目指している。認知症でなかったら普通に出来ていた事や出来ていたであろう事を、職員がさりげなく支援できるよう心掛けている。「介助」ではなく「支援」と言う考えを実践すべく努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームはJR内房線浜野駅から徒歩5分と交通の便が良い閑静な住宅街の中に立地する。好青年のホーム長中心に職員構成は男女、年齢層ともにバランスが取れており、それぞれの役割分担により明るい雰囲気を感じられる。ホーム長は昨年9月に就任したばかりであるが、「本人を中心に家族、地域、介護職など関係者全員参加型の介護」を目指して、率直かつ厳しく自分達の取り組みの中で「出来ていること、いないこと」を洗い出し、職員とともに入居者主体のホーム運営の実現に向けて取り組んでいる。近くの中学生在がお花を届けてくれたり、防災について町内会に相談を持ちかける等、地域との協力関係作りについても着実に歩を進めている。職員の真摯な取組み姿勢は必ずホームの更なる発展につながるものと期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「本人+家族+地域+介護職」と言う形での「全員参加型の介護」を事業所独自の理念としている。このように取り組みは行っているつもりではあるが、「実践に向けて…」と言う部分では引き続き努力したい。	当ホームの理念は、法人の理念に沿って平成20年6月独自に作り上げたものであり、その実践を目指して本人を中心に関係者全員参加型のホーム運営に取り組んでいる。	理念は会議等機会あるごとに、関係者に語りかけ浸透をはかっているが、玄関など関係者の目に付くところにわかり易く文章化して掲示することを推奨したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度町内会に入り行事案内、敬老会等情報入手できるように、盆踊り等にも参加している。地区の中学校からプランターの花をいただいたりしている。町内会の定期清掃への参加も実施している。	町内会への加入が実現し地域の一員として活動するとともに、入居者も地域の行事への参加を楽しみにしている。日常の散歩や買い物の際にも挨拶を交わし、地域に溶け込む努力をしている。近くの中学校との交流も始まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い取り組んでいるが、「地域貢献」は十分でないと感じている。今後努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回を基本として開催を行っている。メンバーは町会、地域包括、家族、職員で構成されているが、4月の開催時は薬局からの参加もある。いま、医師等にも参加の声かけをしている。	開催日は家族の参加が得られやすい偶数月の土曜日と定め、毎回多くの家族や利用者の参加を得ている。定例議題に加え、防災対策、ジェネリック薬品の話など都度のテーマを取上げ、本年度は4回実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉県グループホーム連絡会には参加して、市担当者との連携をはかっている。自治体の研修には積極的に参加している。	地域包括支援センターがすぐ近くにあり、日常的に連携を取っている。千葉県グループホーム連絡会の諸行事には必ず参加し、市担当者との連携をはかっている。市主催の研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠の弊害は全体会議、ミーティング等で話し合い、職員が十分に配慮を行う事で、日中は施錠せず自由な暮らしを支えるようにしている。	千葉県の身体拘束廃止研修は職員が順番に受講するとともに、毎月の定例会議等でも話し合い身体拘束廃止について取り組みを徹底している。日中は玄関には施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議等で身体拘束廃止の意味と当社のマニュアルで実際に理解を深めている。また、権利擁護身体拘束防止研修等にも定期的に参加し、虐待防止への理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在左記の「成年後見人」制度を利用している方がいるため、役割・必要性については理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては「読み合わせ」「説明」「質問の受付」を充分に行い、不明な点のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームで作成したアンケート調査やケアプラン更新時の要望の確認、また、会社としても「顧客満足度調査」を行い、意見聴取に努めている。	法人として全社的に実施している顧客満足度調査の他に、例えば「看取りについて」等ホームとしての課題については個別にアンケートを取っている。家族会も年1度程度開催し家族の意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	仕事内容についての意見や提案、不満や愚痴を聞けるように努めている。	ホームの運営は毎月25日に全職員参加による全体会議で意見交換をして、職員の意見も取り入れて行っている。また、日頃ホーム長を中心に職員の些細な要望も受け止めるように努めており、職員の定着も良くなっている。	新しいホーム長の下に、職員の力を結集して理念に基づきホーム運営が充実することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務調整などについては利用者状況やスタッフ状況に応じ、柔軟な対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として様々な職員研修を実施しているが、必ずしも現場に適合した内容とは言えない部分もあり、当ホームにおいても独自に外部研修とホーム内での研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くにニチイのデイサービスがあり1年に1回の祭りに参加させて頂いている。ただ、実際は年間を通して交流が薄く、さらに深めていくよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査やご本人の情報収集などを時間をかけておこない、「入居者様のニーズ」の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査やご本人の情報収集・生活歴やご家族様の希望の聞き取りを時間をかけておこない、「ご家族様のニーズ」の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用は、現実的に難しい状況ではあるが、「必要なこと」「希望すること」の見極めはしっかりと行い、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	かかわりを「要介護者・認知症」ではなく、人間として持つことにより、「介護職として共に暮らす」事を目的とし、入居者様が介護職員を介護職として認識しないような自然な関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事作りが得意な入居者様は職員と共に調理し、縫い物が得意な方はボタン付けをする。野菜作りも入居者様が指導的な立場で、職員が協力している。職員が疲れている時、ねぎらいの言葉をかけてくれたり、お互いに支えあう関係がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様によっては、馴染みの友人に電話されたり、手紙を書かれたりされているが、ご家族様の都合によりご入居となった方は支援が行き届いているとは言えない。	馴染みの関係を保つ為に友人知人の来訪や利用者宛の手紙が来たときなども、職員が読んでなるべく返事が出せるように支援している。家族にも美容院や、お墓参り等への外出の付き添いをお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりが孤立せずに入居者様同士が関わりあい、支えあうよう努めているが、それを出来ている方と出来ていない方とでは大きく差があるのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によるご退去でサービス完了後のご本人のご様子やまた、今後についての相談を受けた事がある。退去時等も「何かあればご相談下さい」とお伝えしてしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを活用し、ご家族から心身の状況や生活歴等の情報を得ている。入居者様の希望や要望が一番大切であり、全職員が、日々の係りの中で思いや意向の把握に努めている。	入居時にセンター方式を用いて家族から直接心身や生活環境などを詳しく聴取して、本人の意向の把握に努めている。また、日常的には各職員が入居者が心を開く話題で会話を交わし、汲み取った思いや意向は職員間で共有して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し家族に対して情報協力を依頼し、可能な限りの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用し全スタッフに対して情報の収集と整理も依頼して可能な限りの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたり、ご本人の思いや言動、またご家族の要望、医師への相談、介護職員の意見等も取り入れている。定期的にカンファレンスを行い現状の再確認とサービスの評価を行っている。	介護計画は毎月のカンファレンスを通しての情報と、家族からの面接時の要望を取り入れて作成している。状態によっては医師にも相談している。モニタリングは3ヶ月ごとに実施し、状態の変化に応じての見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残すように指導はしているが、実際に介護計画の見直しに活かしているかは課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なかなかグループホームの多機能性については理解できずにいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入会し地域との交流に努めるようにはしているが、それ以外の地域資源との協働は不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本来は、昔からの主治医での医療の提供が望ましいのかもしれないが、提携医以外の通院、受診はご家族様対応である為、最終的には主治医を当ホームの提携医とする利用者の方が多いのが現状である。	家族からの要望により提携医を主治医とする利用者が殆んどである。提携医は月2回の往診があり、歯科医の往診もある。医療面では安心できる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医への相談や指示はその都度行っており適切な指示をいただけるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時やその間にご家族や病院関係者に対して状況の聞き取りやその後の打ち合わせ、退院時のケアの方針や相談についての話し合いを持っており、途中経過も含めて現場の介護職員にも報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人の意向を含めてアンケートをとらせて頂いたり、当ホームで出来る事の説明をその都度ご説明させて頂いたり担当の地域包括の方に相談し連携をとっているが、さらにきめ細かな対応に努めたい。	重度化や終末期の対応については、入居時に家族にホームで対応できることについての説明をしている。本年度、看取りに付いての家族アンケートを実施し、ホームでの対応についての検討をしている。緊急時には医療機関との連携もとれるようになっている。	今回の看取りアンケートの結果を検討しながら、ホーム・職員・家族の共有できるような方針を定めていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講を修了している職員もいるが、経験の少ない職員もいる為、研修や初期対応の手順の徹底については今後重点的に対応したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的実施するようにしているが、夜間の対応等課題も大きい。	避難訓練は消防署立会いを含め年2回実施している。スプリンクラーは来年度設置予定で準備を進めている。課題である地域との協力関係作りについては地主や町内会と相談中である。	課題となっている二階のユニット利用者の避難の方法や、地域との協力関係の構築について引き続き検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症が進んでも人間、人生における先輩であると言う事は日々職員に伝えているが、それを年職員がしっかり理解して実践しているかは、恥ずかしい事ですが、不安が残る。	個人情報の保護の取り組みは、ニチイ学館全社をあげて取り組んでいる。プライバシーに配慮した介護についても毎月の会議や朝のミーティング、研修などで職員と日々確認し合っているが、ホーム長は徹底できているか常に自問自答している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が納得できるような、働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大変恥ずかしいことではあるが、生活のペースは共同生活としての全体の流れ的なスタッフ都合が多くあるのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望があれば理美容等ご希望の店にお連れする事は可能であるが、希望の訴えがないのが現状である。洋服類は要望に応えられることもあるが、職員による代行が多いもの現状である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	協力をしながらの食事準備の支援等は毎日行っており、入居者様自身もご自身の役割として認識しているようにも見える。	食材は宅配業者により献立や作り方とともに毎日配達されている。調理や片付けは利用者も能力に応じて職員と共に行っている。又、2つのユニットとも毎週1回は献立から買い物まで利用者と一緒に考えて楽しみな昼食になっている。	職員は利用者が安全に食事が出来るように見守る形で介助に努めているが、一緒に食べることで信頼も増すと思われる。同じ食卓を囲むことの検討をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状況や状態を把握してご提供できている。また、からだへの負担等も考えられる方は提携医等にも相談させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とは言えないが、口腔内のチェックも含めて出来る方は自身で行っていただき、毎日必要に応じてお手伝いをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については特にデリケートな部分であり、職員間で把握のできるチェックシートを作成し、自然な支援が出来るよう努めている。	排泄の自立支援については、職員が2種類のチェックシートを活用して利用者のパターンを把握して日中はトイレに誘導している。ホームに入居するようになってから自立できるようになった利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品と摂る習慣が以前からあり、また各入居者様も自然と摂られている。また、便秘への理解は職員で出来ており、必要に応じて軽い運動やマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は職員都合により決定されることが多いが、希望があれば柔軟な対応は行っている。	入浴の回数は平均して週3回入れるように支援している。浴室の入り口には暖簾がかけられており入浴が楽しめる工夫をしている。また、希望に応じた対応が出来ることを利用者や家族に伝えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については、ご自身のペースを最大限に尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者様全員の薬を把握している訳ではない。しかし、薬に関しての研修などを薬剤師に依頼をしたり、不安点、疑問点は提携医や薬剤師に確認をするように徹底して、担当職員が服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	提案・支援を行っているつもりではあるが、中には過去の生活歴が不明な方、表現を読み取る事が困難な方もおられる為、偏りが生じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置や身体状況、また希望の把握が困難な場合があり、その日の一人ひとりの希望に沿ってというのは難しいのが現状である。	日常的な外出として近所のコンビニでの身の回り品の買い物や、町内会行事のお祭りなどにも積極的に参加している。又、系列のデイサービスや介護タクシーを利用して、花の美術館や、ショッピングセンターなどへ遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社側の原則として個人での金銭取り扱いや管理は出来ない事となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様はご家族の理解もあり、実施が出来ているが、その他の方に関しては全くないのが現状である。ご家族様に対しては面会や電話、手紙などのかかわりを求めているが、実現できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂である共用スペースは「居場所」として不快な思いをされないよう気をつけて配慮を行っている。	玄関・居間兼食堂・廊下などの共有部分は2つのユニットとも明るく広々している。玄関や壁面には、利用者の生けた生け花や、絵画、折り紙などが貼ってあり、ユニット別に個性が出ている。又、換気はこまめに窓の開閉で対応しており、不快な感じはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニット廊下などに椅子を配置し、工夫は行っている。現状は各居室をし使用される方と、廊下のスペースを使用される方とさまざまである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お持込の家具で生活感のある居室を利用される方もあれば、そうでない方もおられる。現状としてはご家族様のご理解・ご協力が必要となることであり、アナウンスは行っているがなかなか変化は見られない。	居室にはテレビやソファ、ベッドが置いてあり、壁には家族や利用者の若い頃の写真などが貼られている。各居室とも簡素で清掃は行き届いている。位牌や飾り筆筒を持ち込んでいる利用者もあり、それぞれ工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	もともとグループホームとして作られた建物であり概ねバリアフリーとなって為大きな支障はないが、手すりなどがあれば自立した生活が送れるのにと感じる箇所もあり、職員で工夫して対応している。		